

タイトル:平成 17(2005)年度 教育セミナー

日時:平成 17 年 7 月 26 日(火)~29 日(金)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究 3 階 マルチメディアセミナー室(306)

「多面体としてのアラブ—研究方法自体の多様化と深化のために」

黒木 英充(AA 研)

「アラブ研究」は、その空間的・時間的広がり巨大さゆえに、「問題を設定することにより対象の地域が設定される」という、地域研究の伸縮自在性がまさに前提となる場である。また、単に対象を均質な要素に分解して分析を加える方法ではなく、複合的・重層的・多元的な総体として把握するべく様々な研究領域を越境する、という方法が意味を持つ場でもある。

以上を確認したうえで、オスマン帝国期シリアの都市アレppoにおける非ムスリムを素材とした研究の事例 3 点、1)「教会合同」をめぐるキリスト教徒間の紛争、2)人頭税台帳分析をめぐるデータベース利用と解釈、3)ヨーロッパ外交団の現地人通訳をめぐる戦略的問題、について概説した。

最後に、研究者の通訳的性格を指摘し、往々にしてその仕事が政治的な磁場の中でなされるがゆえに、無色透明な中立性を確保していると錯覚するのではなく、その主体性に関して常に意識的であるべきだ、と述べた。